



取扱説明書

車載型デジタル簡易無線機 IC-DPR100

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。

必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなりますのでご注意ください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

チャンネルについて

- ◎ CH01～CH14、CH16～CH30 :陸上・海上用チャンネル
- ◎ CH15(呼出CH)★¹ :呼出用チャンネル
- ◎ CH S1～CH S5★² :上空用チャンネル

- ★¹ 一時的な呼び出しをするときに使用します。(☞Pv、P5)
多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている陸上・海上用チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。
- ★² 上空用チャンネルでは送信できません。
出荷時、上空用チャンネルの使用は、「OFF」(☞P43)に設定されています。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

登録商標/著作権について

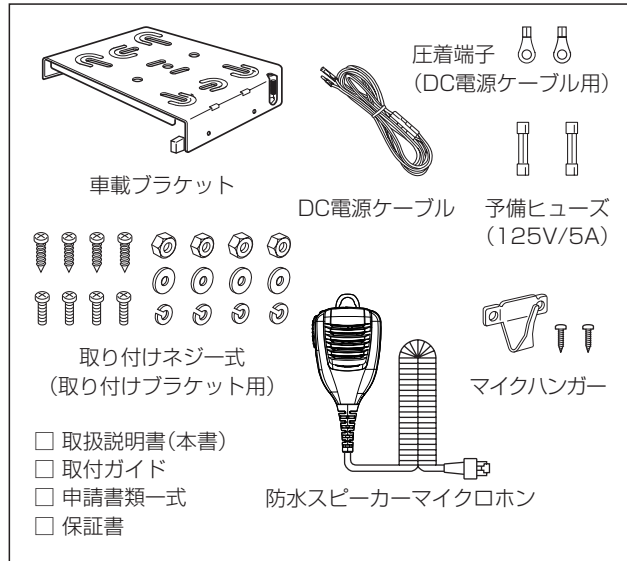
アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

付属品について



本製品の概要について

- ◎ IP54(防塵形★¹と防まつ形★²)の性能に対応できるように設計されています。
- ◎ 付属の防水スピーカーマイクロホンについても、IP54の性能があります。
- ◎ デジタル通信により、高音質な交信ができます。
- ◎ チャンネル番号音声案内機能により、通話チャンネルを切り替えたとき、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
- ◎ 呼び出しメロディー機能を使用すると、ポケットビープの代わりとして、メロディーでお知らせします。
- ◎ プライベートチャンネルスキャン機能により、指定した2つの通話チャンネルの信号を交互に監視できます。
- ◎ 卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせることで、屋内のAC電源を使用できます。
- ◎ 弊社製デジタル簡易無線機(IC-DPR1/IC-DPR3/IC-DPR5/IC-DPR6)とも通話できます。
- ◎ 個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。★³

- ★¹ 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること。
- ★² いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないもの。
- ★³ AMBE+2™方式を採用している機種に対応しています。

はじめに

防塵/防水性能について

本製品は、IP54の防塵/防水性能がありますが、完全防塵/防水構造ではありません。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎ 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎ 防水スピーカーマイクロホン(HM-204)、またはコマンドマイク(HM-206 #02)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎ 落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎ 本製品を分解、または改造したとき
- ◎ 水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- ◎ 水や海水につけたとき
- ◎ -20℃～+60℃以外の環境で使用したとき

自動車運転時のご注意

- ◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎ 無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。

電波法上のご注意

- ◎ 無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)
- ◎ 登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。
再登録の申請は、有効期間満了の3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
※別紙の「デジタル簡易無線局の運用に当たって」に記載されている「無線局(登録/包括登録)申請手続きの流れ」をご覧ください。
- ◎ 本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎ 本製品でご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。
同梱の「IC-DPR100用アンテナについて」を参考にお選びください。
技術基準適合証明(工事設計認証)で登録されていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられることとなりますので、ご注意ください。
- ◎ 他局の通信妨害や、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎ 本製品は、日本国内における陸上、および日本周辺海域で運用する無線機です。
上空での運用はできませんのでご注意ください。
無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

取り扱い上のご注意

- ◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
- ◎直射日光の当たる場所に設置したり、長時間放置したりしないでください。
移動局として車内に設置する場合、炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本製品に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- ◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、1日の使用が終わったときは、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター内蔵のおもな電子機器】

- ◎LED照明器具
- ◎電磁調理器
- ◎自動車に搭載された電子機器
- ◎太陽光発電装置

ユーザー登録について

弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

はじめに

基本的な運用手順について

各手順の操作方法については、本書2章をご覧ください。

【通話チャンネルが決まっている場合】

- ①相手と同じ通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に合わせます。
- ②【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけ、【PTT】(送信)スイッチをはなします。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

- ①「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。
※空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を事前に確認しておきます。
- ②【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。
- ③通話チャンネルを通話相手に伝えて、【PTT】(送信)スイッチをはなします。
- ④通話相手に伝えた通話チャンネルに切り替えます。

【通話チャンネルに設定できる便利な機能】

- ◎通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)には、ユーザーコード★(☎P8)、および秘話キー★(☎P12)を設定できません。
★同じ設定の相手とだけ通話できます。
- ◎プライベートチャンネル機能(☎P27)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の切り替えに便利です。
- ◎プライベートチャンネルスキャン機能(☎P28)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

はじめに i

安全上のご注意 viii

1.各部の名称と機能 1

- 前面部/マイクロホン 1
- 表示部 3

2.はじめての通話 4

- 通話するときのアドバイス 7

3.簡単なグループ通話のしかた 8

- ユーザーコードの設定方法を変更するには 8
- ユーザーコードを使用して通話するには 9

4.盗聴防止の設定をするには 12

- 秘話キーの設定方法を変更するには 12
- 秘話キーを使用して通話するには 13

5.個別呼び出し機能による通話 17

- 呼び出しかたの種類について 17
- 個別呼び出し機能を設定するには 18
- 個別呼び出し機能で通話するには 21

6.そのほかの機能について 24

- ロック機能 24
- 受信電波強度通知機能 24
- モニター機能 24
- 緊急呼び出し機能(エマージェンシー) 25
- プライベートチャンネル機能 27
- プライベートチャンネルスキャン機能 28
- メモリーチャンネルスキャン機能 29
- ポケットビープ機能 30
- 呼び出しメロディー機能 30
- 送信出力の切り替え 30
- 着信履歴機能 31

7.各種機能の設定 32

- 設定項目一覧 32
- 設定モードに移行するには 33
- 詳細設定モードに移行するには 33
- 設定のしかた 34
- 設定項目について 34

8.別売品とその使いかた 45

- 別売品一覧表 45
- SM-28(デスクトップマイクロホン) 45
- AM-5(アーム型マイクロホン) 46
- 日常のお手入れと点検について 47
- ヒューズの交換について 47

もくじ

9.ご参考に ————— 47

- 初期状態に戻す(リセットする)には …………… 47
- 故障かな?と思ったら …………… 48
- 従来製品との相互使用について …………… 49
- アフターサービスについて …………… 49

10.定格 ————— 50

- 無線機本体 …………… 50
- HM-204(防水スピーカーマイクロホン) ……… 50

さくいん ————— 51

簡単ご利用ガイド ————— 56

安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。

- ◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎ お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

△危険

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

△警告

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

△注意

これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】

お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用法とは異なる使用法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

△危険

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。

△警告

◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。

交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。

運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

◎ 電子機器の近く（特に医療機器のある病院内）では絶対に使用しないでください。

電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

安全上のご注意

⚠警告(つづき)

- ◎ マイクロホンのケーブルを持って、マイクロホンを振り回したり、投げたりしないでください。
本人やほかの人に当たり、けがや故障、および破損の原因になります。
- ◎ 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 指定以外の電源や電圧を使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ DC電源ケーブルを接続するときは、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の極性を間違えないように十分注意してください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ DC電源ケーブルや接続ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、加熱しないでください。
ショートして発火の原因になります。
- ◎ 接続がゆるかったり、DC電源ケーブルや接続ケーブルが傷ついたりしたときは、使用しないでください。
ショートして発火の原因になります。
- ◎ 長時間使用しないときは、安全のため本製品に接続する電源を取りはずしてください。
発熱、火災の原因になります。
- ◎ 雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、本製品のDC電源ケーブル、卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルには、絶対に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎ 本製品のDC電源ケーブルや卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルにホコリが付着した状態で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 本製品のDC電源ケーブル、卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 指定以外のヒューズを使用しないでください。
火災、故障の原因になります。
- ◎ めれた手で本製品のDC電源ケーブルや卓上電源装置(別売品)の電源ケーブル、または本製品に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎ 指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。
- ◎ 線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

⚠警告(つづき)

- ◎ 万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

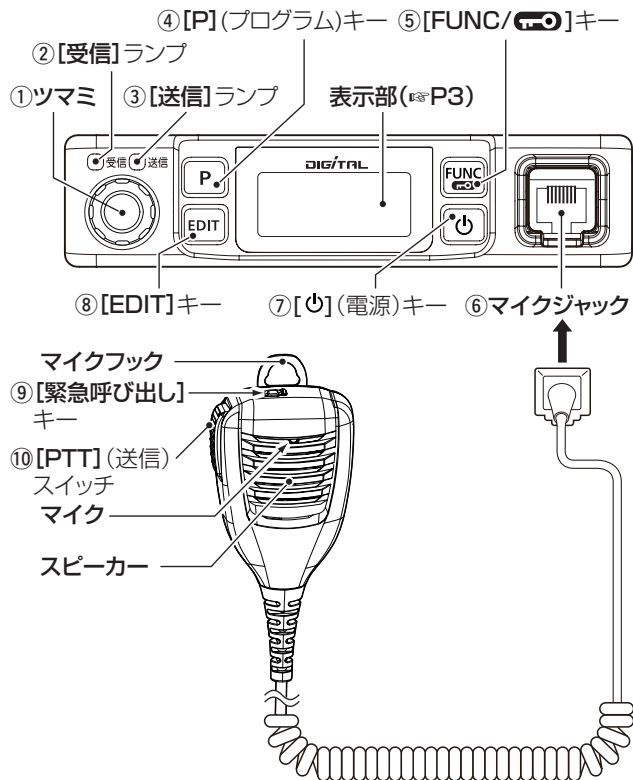
- ◎ 容易に人が触れることができる場所にアンテナを設置しないでください。
送信中のアンテナは高電圧になることがあるため、感電、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 指定以外の別売品を使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎ 本製品のマイクコネクタ一部分に金属片やゴミを付着させないでください。
ショートして発火の原因になることがあります。
- ◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に設置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

⚠注意(つづき)

- ◎ -20°C ~ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では使用しないでください。
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。
- ◎ 長時間使用すると、後面部の温度が高くなりますので、後面部に触れないでください。
また、周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。
やけどすることがあります。
- ◎ ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となる場合があります。
- ◎ 本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 本製品の上に乗ったり、ものを置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になる場合があります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

各部の名称と機能

■ 前面部/マイクロホン



① ツマミ

操作音と音量を調整します。

※ [FUNC/] キーを繰り返し押すことで、表示された通話チャンネル番号、相手局番号、ユーザーコード、秘話の変更に使用します。

② [受信] ランプ

電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。

③ [送信] ランプ

[PTT] (送信) スイッチを押しているあいだ(送信中)は赤色に点灯します。

④ [P] (プログラム) キー

あらかじめ、キーに割り当てた機能が動作します。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、長く押すと、設定されたプライベートチャンネル番号に切り替わります。

※ [P] (プログラム) キーに割り当てる機能は、詳細設定モード (P40) で変更できます。

⑤ [FUNC/🔑] キー

◎ 短く1回押すと、通話チャンネルを変更できます。

繰り返し短く押すと、表示が「ユーザーコード(例:UC OFF)」(☞P5)→「秘話機能(例:秘話 OFF)」(☞P12)→「相手局番号(例:相手0001)」★(☞P21)→「通話チャンネル(例:CH05)」(☞P5)の順に切り替わります。

★個別呼び出し機能が設定されているとき、表示されます。

◎ 長く(約1秒)押すごとに、ロック機能(☞P24)の「ON」/「OFF」が切り替わります。

※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)を選択したときだけ、短く押す操作が無効になります。

⑥ マイクジャック

付属の防水スピーカーマイクロホンを接続します。

※別売品(SM-28、AM-5)のマイクロホンを接続するときは、外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)を接続してください。(☞8章)

⑦ [🔋] (電源)キー

電源を「入」/「切」します。

⑧ [EDIT] キー

長く(約1秒)押すごとに、送信出力(5W(High)/1W(Low))が切り替わります。(☞P30)

※ユーザーコード(☞P10)、秘話キー(☞P15)を設定するときは、短く押すごとに、編集できる桁が切り替わります。

※スキャン中に短く押すと、スキャンが解除できます。(☞P28、P29)

※設定モードや詳細設定モード(☞7章)に移行したときは、短く押すごとに、設定項目が逆送りで切り替わります。

⑨ [緊急呼び出し] キー

緊急呼び出し機能(☞P25)が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。

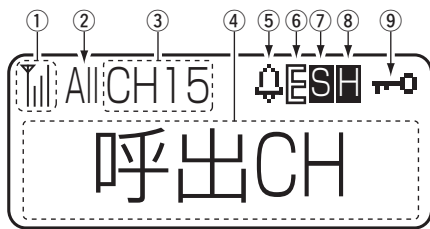
⑩ [PTT] (送信)スイッチ

[PTT] (送信)スイッチを押すと送信状態、はなすと受信状態になります。

※電波法により、「連続送信(通話状態)」が5分を超えると、通話を自動的に切断します。(☞P7)

1 各部の名称と機能

■ 表示部



① 電波状態表示

受信している電波の強度を、右記の3段階(目安)で表示します。

※「↑」は、電源が入っているときは常に表示されています。



② 個別呼び出し(AII/☒)モード表示

個別呼び出し機能が設定(☒P17)されているときに表示します。

All: 全局呼び出しとなる項目が表示されているとき

☒: 相手からのグループ呼び出しを受けたとき、着信を許可するグループ番号が表示されているとき

③ 操作状態の表示

ユーザーコード(☒P8)や秘話キー(☒P12)を選択したとき、選択されている通話チャンネルを表示します。

※ 設定モードや詳細設定モード(☒7章)のときは、「設定」、「FUNC」、「Scan」などを表示します。

「Scan」はスキャン機能、「FUNC」は個別呼び出し機能に関連のある設定項目を示しています。

④ [相手局番号/設定内容]表示

音量(0~32)、通話チャンネル(☒P5)、ユーザーコード(☒P8)、秘話キー(☒P12)、設定モードや詳細設定モード(☒P32)で選択した設定項目や設定内容などを表示します。

⑤ [🔔 (ベル)]表示

通話相手から個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。ポケットビープ機能(☒P30)を設定すると、表示されます。

⑥ [☒ (エマージェンシー)]表示

緊急呼び出し機能(☒P25)を設定すると、表示されます。

⑦ [S (スキャン)]表示

プライベートチャンネルスキャン(☒P28)、またはメモリーチャンネルスキャン(☒P29)中に、点滅します。

⑧ [H / L (送信出力)/R (受信専用)]表示

各通話チャンネルの送信出力に応じて、H、またはLを表示します。

また、上空用チャンネル(受信専用)選択時は、Rを表示します。

H: 5W(High)設定時に点灯

L: 1W(Low)設定時に点灯

R: 上空用チャンネル(S1~S5)選択時に点灯

⑨ [🔒 (ロック機能)]表示

ロック機能(☒P24)が動作中のとき表示します。

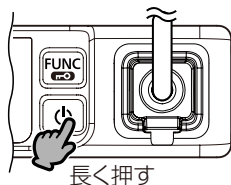
相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの非常に簡単な通話のしかたについて説明しています。

1 電源を入れる

[P] (電源) キーを長く(約1秒)押します。

- ビープ音が「ピー」と鳴ります。

【電源を入れたときの表示】



(約1秒)



電源投入直後 呼出用チャンネル表示★

★ 工場出荷時や全設定初期化時は、呼出用チャンネル(CH15)を表示します。(P5)

運用後は、前回選択した通話チャンネル(CH01～CH14、CH15(呼出CH)、CH16～CH30)を表示します。

2 音量を調整する

ツマミを回すと、音量を調整できます。相手の音声聞きやすい音量レベル(表示例:15)に調整してください。

- 調整範囲:0～32

詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作を「P長 モニタ」(P40)に設定することで、[P] (プログラム) キーを押しているあいだ、[受信]ランプが緑色に点灯します。



音量表示(表示例:15)

「ザー」という音が出ますので、この音を聞いて調整できます。(P24)

【ご注意】

音量が最小のときは、操作音(ビープ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

【ご参考に】チャンネル番号音声案内について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

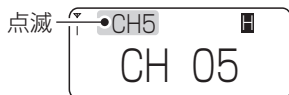
※使用しないときは、詳細設定モードの「チャンネル番号音声案内」項目で設定を「OFF」にできます。

2 はじめての通話

3 通話チャンネルを合わせる

① [FUNC/🔊]キーを短く押します。

- 表示(例:CH5)が点滅します。

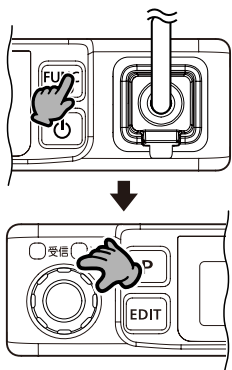


通話チャンネル表示

② ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01~14、16~30

※ 通話チャンネルとは、通話に使用する周波数のことです。
相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。



【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(☞P8)や秘話機能(☞P12)、個別呼び出し機能(☞P17)による通話に使用できません。

「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)に変更してから通話してください。



呼出用チャンネル表示

4 [PTT] (送信)スイッチを押す

[PTT] (送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

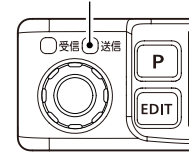
- [PTT] (送信)スイッチを押しているあいだは、[送信]ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色で点灯

【マイクロホンの使いかた】

マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



【ご参考に】

- ◎ [受信]ランプが緑色に点灯中は、混信防止機能(☞P7)によって送信できない場合があります。
- ◎ [PTT] (送信)スイッチを押したとき、「ピッ」と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。
※ 詳細設定モードで、送信モニター(☞P35)が「OFF」に設定されているときは、「ピッ」(ビーブ音)と鳴りません。

5 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声がかかります。

受信中は、[受信] ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態 (P3) を表示します。

待ち受け状態のときは、[送信] ランプと [受信] ランプが消灯しています。



通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、[受信] ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

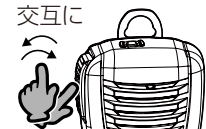
6 通話をつづける

送信と受信は交互にします。

※ 相手が送信しているときは、[PTT] (送信) スイッチを押しても混信防止機能 (P7) が動作して、「プップ…」と鳴りつづき、送信できません。

相手の通話が終了してから、送信してください。

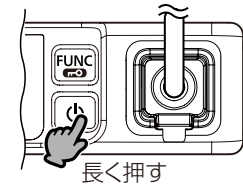
※ 送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。



7 電源を切る

[ON] (電源) キーを長く(約1秒)押します。

- 電源を切る前の通話チャンネルを記憶して電源が切れます。



※ 電源を切る直前に、表示内容を変更してすぐ(2秒以内)に電源を切ると、電源を切る前の状態が記憶されません。表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。

2 はじめての通話

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。

制限時間の**10秒前**になると、ピープ音が「ピッ」と鳴ります。連続通話時間が5分になると、警告音が「ブッ」と鳴って、自動的に送信を停止します。

※ 送信を自動停止すると、1分間は通話できません。

通話を再開する場合は、1分後に**[PTT]**(送信)スイッチを押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう、自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。3秒以上通話が途切れた場合、本製品が交信を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがあります。故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

◇ 通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。(送信出力:5W)

見通しのよい場所:約10km

市街地や建物内 :約1~3km

◇ 通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなる場合があります。

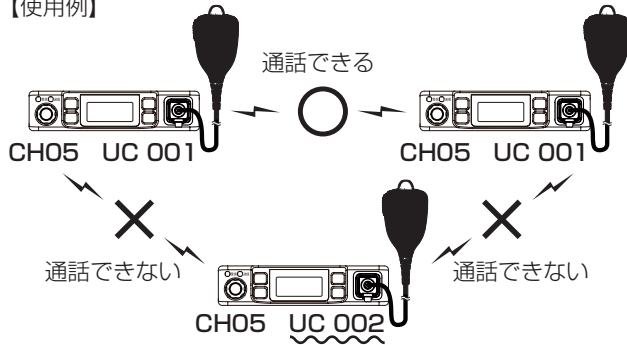
そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

簡単なグループ通話のしかた 3

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。通話チャンネル(※P5)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



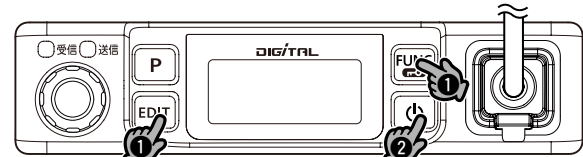
※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。
※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。

【ご参考に】ユーザーコードの設定方法変更について
通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、使用する前に、右記の手順でユーザーコードの設定方法を変更してください。

■ ユーザーコードの設定方法を変更するには
通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用できます。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [EDIT]キーと[FUNC/]キーを同時に押しながら、[P] (電源)キーを押しつづけます。

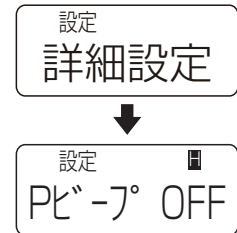


①を同時に押しながら、②を長く押し

- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

● 「Pピーブ」が表示されます。

- ※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。
※ この章の説明で使用する設定値は、左図の【使用例】に記載の値を使用しています。

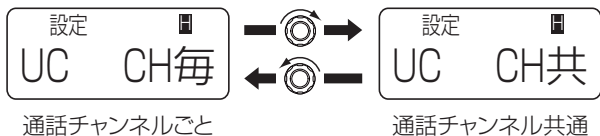
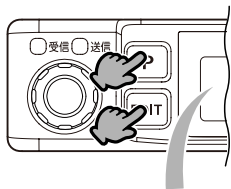


3 簡単なグループ通話のしかた

■ ユーザーコードの設定方法を変更するには(つづき)

2 「UC CH共」/「UC CH毎」を選択する

- ① [P] (プログラム) キー、または [EDIT] キーを繰り返し短く押して、「UC CH共」(初期設定時) 表示を選択します。
- ② ツマミを回して、「UC CH毎」、または「UC CH共」を選択します。



3 選択した設定方法に変更する

- [PTT] (送信) スイッチを押します。
- 詳細設定モードが解除され、ユーザーコードの設定方法が変更されます。



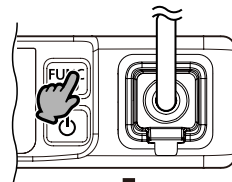
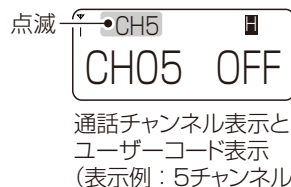
■ ユーザーコードを使用して通話するには
ユーザーコードを使用してグループ通話をする手順です。

※「UC CH毎」に設定されている場合、次ページで設定するユーザーコードが、下記で選択した通話チャンネルだけに使用されます。

1 通話チャンネルを合わせる

- ① [FUNC/] キーを短く押します。

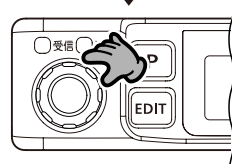
● 表示(例: CH5) が点滅します。



- ② ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

● 選択範囲: 01~14、16~30

※ CH01からCH30を選択したとき、またはCH30からCH01を選択したときに、ピープ音が「ピピッ」と鳴ります。



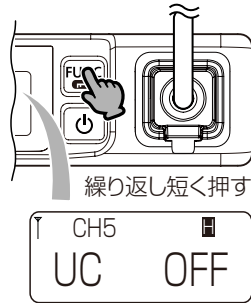
2 UC(ユーザーコード)表示にする

[FUNC/🔊]キーを繰り返し短く押して、「UC OFF」(初期設定時)表示を選択します。

- 「UC OFF」 → 「秘 話 OFF」 → 「通話チャンネルとユーザーコード(例:CH05 OFF)」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、「通話チャンネルとユーザーコード」表示に戻ります。

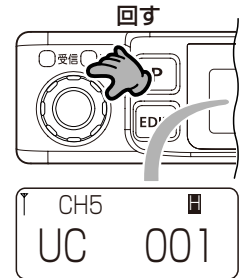
※ 「UC OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、その相手には聞こえません。



3 ユーザーコードを設定する

ツマミを回して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

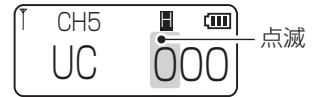
- 選択範囲: OFF(000)、001~511



【編集できる桁を変更するには】

- ① [EDIT]キーを短く押すごとに、編集できる桁が変わります。

- 編集できる桁が点滅します。



「UC OFF」表示で短く1回押したとき(例: 上位1桁目)

- ② ツマミを回して、ユーザーコードを選択します。

※ ほかの桁も編集するときは、①と②を繰り返します。

※ [P] (プログラム)キーを押すと、編集前の数字に戻ります。

- ③ [FUNC/🔊]キーを短く押して、内容を確認します。

- 桁の点滅が点灯に変わります。

※ 約10秒後、「通話チャンネルとユーザーコード」表示に戻ります。

※ 設定したユーザーコード(例:001)は、通話チャンネルの右側に表示されます。(例:CH05 001)

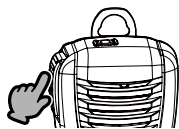
3 簡単なグループ通話のしかた

■ ユーザーコードを使用して通話するには(つづき)

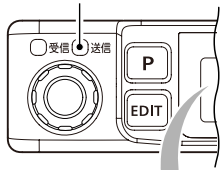
4 [PTT](送信)スイッチを押す

[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、[送信]ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色で点灯



ユーザーコード表示

5 相手の音声を受信する

[PTT](送信)スイッチをはなすと待ち受け状態に戻ります。相手局が送信した信号を受信すれば、音声聞こえます。受信中は、[受信]ランプが緑色に点灯します。

また、信号の受信状態(電波状態)を表示部に表示します。待ち受け状態のときは、[送信]ランプと[受信]ランプが消灯します。

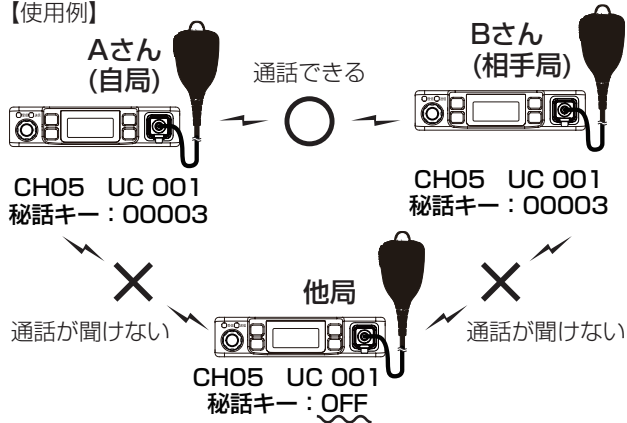


電波状態
受信中の表示例

通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なるユーザーコードを使用している)の電波を受信しているときも、[受信]ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

【使用例】



- ※ 秘話機能を使用する人(上記の例:Aさん/Bさん)には、秘話機能を使用しない人(上記の例:他局)の通話が聞こえます。
- ※ 秘話キーが異なる相手の通話は聞こえません。
- ※ ユーザーコードや個別呼び出し機能とも併用できます。
- ※ 「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、秘話機能を使用できないため、本章の操作はできません。

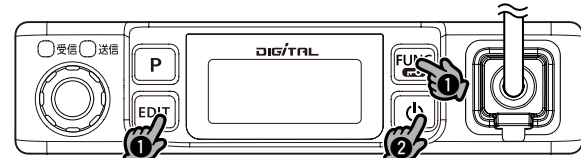
【ご参考に】秘話キーの設定方法変更について

通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なる秘話キーを使用する場合は、使用する前に、右記の手順で秘話キーの設定方法を変更してください。

■ 秘話キーの設定方法を変更するには
通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用できます。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [EDIT]キーと[FUNC/]キーを同時に押しながら、[ON] (電源)キーを押しつづけます。



①を同時に押しながら、②を長く押す

- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - 「Pピーブ」が表示されます。
- ※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。
- ※ この章の説明で使用する設定値は、左図の【使用例】に記載の値を使用しています。

設定
詳細設定



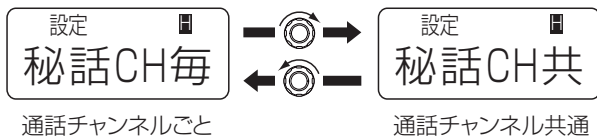
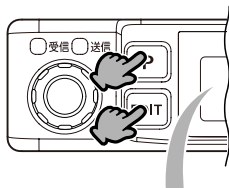
設定
Pピーブ OFF

4 盗聴防止の設定をするには

■ 秘話キーを使用して通話するには(つづき)

2 「秘話CH共」/「秘話CH毎」を選択する

- ① [P] (プログラム) キー、または [EDIT] キーを繰り返し短く押して、「秘話CH共」(初期設定時) 表示を選択します。
- ② ツマミを回して、「秘話CH毎」、または「秘話CH共」を選択します。



3 選択した設定方法に変更する

[PTT] (送信) スイッチを押します。

- 詳細設定モードが解除され、秘話キーの設定方法が変更されます。



■ 秘話キーを使用して通話するには

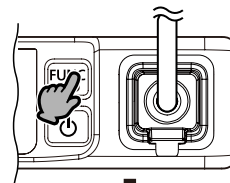
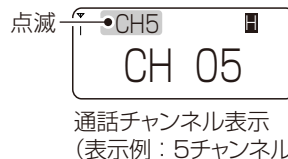
秘話キーを使用して通話をする手順です。

※「秘話CH毎」に設定した場合、次ページで設定する秘話キーを下記で選択した通話チャンネルに使用できます。

1 通話チャンネルを合わせる

- ① [FUNC/] キーを短く押します。

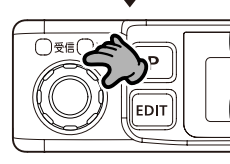
- 表示(例: CH5)が点滅します。



- ② ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲: 01~14、16~30

※ CH01からCH30を選択したとき、またはCH30からCH01を選択したときに、ビープ音が「ピピッ」と鳴ります。



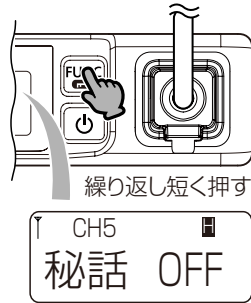
2 秘話表示にする

[FUNC/🔊]キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」(初期設定時)表示を選択します。

- 「UC OFF」 → 「秘話 OFF」 → 「通話チャンネルとユーザーコード(例:CH05 OFF)」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、「通話チャンネルとユーザーコード」表示に戻ります。

※ 「秘話 OFF」の場合、秘話機能を使用する他局の音声は聞こえません。



3 秘話機能をONにする

ツマミを回して、「秘話 ON」表示に切り替えます。

- 「ピッ」と鳴って、「CH」表示になります。
- ※ 「秘話 ON」の場合、自分の音声は、秘話キーが異なる他局には聞こえ(傍受され)ません。



【ご注意】

機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

4 盗聴防止の設定をするには

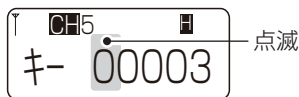
■ 秘話キーを使用して通話するには(つづき)

4 秘話キーを設定する

- ① [EDIT] キーを短く1回押します。
 - 秘話キーを表示します。
- ② ツマミを回して、通話する相手と同じ秘話キー(例:00003)を設定します。
 - 選択範囲:00001~32767

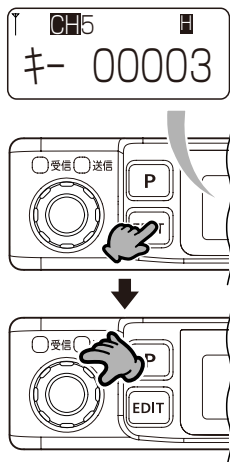
【編集できる桁を変更するには】

- ① [EDIT] キーを短く押すごとに、編集できる桁が変わります。
 - 編集できる桁が点滅します。



短く2回押したとき(例:上位1桁目)

- ② ツマミを回して、秘話キーを選択します。
 - ※ほかの桁も編集するときには、①と②を繰り返します。
 - ※ [P] (プログラム)キーを押すと、編集前の数字に戻ります。
- ③ [FUNC/] キーを短く押して、内容を確定します。
 - 「秘話 ON」表示に変わります。
 - ※約10秒後、「通話チャンネル」表示に戻ります。



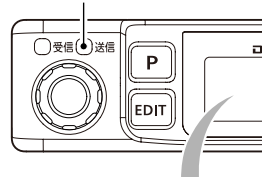
5 [PTT] (送信)スイッチを押す

[PTT] (送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信)スイッチを押しているあいだは、[送信]ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色で点灯



秘話機能ONのチャンネル



6 相手の音声を受信する

[PTT] (送信)スイッチをはなすと待ち受け状態に戻ります。
自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した信号を受信すれば、音声聞こえます。

受信中は、**[受信]**ランプが緑色に点灯します。

また、信号の受信状態(電波P3)を表示部に表示します。

待ち受け状態のときは、**[送信]**ランプと**[受信]**ランプが消灯します。



受信中の表示例

通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キー使用して通話している)の電波を受信しているときも、**[受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

※ 他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

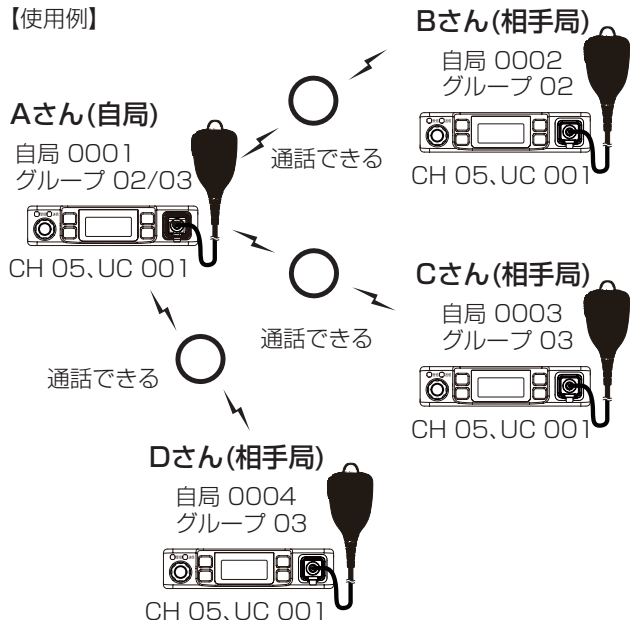
5

個別呼び出し機能による通話

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出し機能を使用した呼び出しかたの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】



呼び出しかたには、次の3種類の方法があります。

◎ 全局呼び出し

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じ相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎ 個別呼び出し

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:0002)を指定して呼び出します。

◎ グループ呼び出し

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、メンバー指定(※P37)されたグループ番号(使用例:グループ 03)に所属するすべての相手(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

【「呼出CH」表示での機能制限について】

CH15は、呼出用チャンネルで、「呼出CH」と表示されます。「呼出CH」表示のときは、グループ通話(※P8)や秘話機能(※P12)、個別呼び出し機能(※P17)による通話に使用できません。

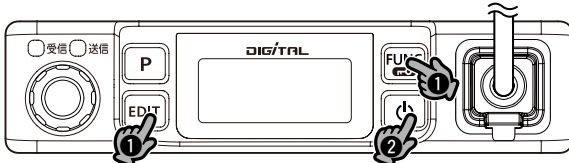


呼出用チャンネル表示

■ 個別呼び出し機能を設定するには
通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [EDIT]キーと[FUNC/]キーを同時に押しながら、[](電源)キーを押すつづけます。

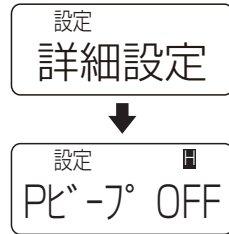


①を同時に押しながら、②を長く押す

- ③「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

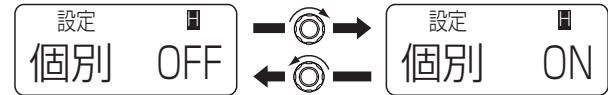
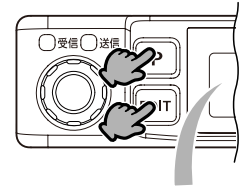
● 「Pビープ」が表示されます。

- ※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。
- ※ この章の説明で使用する設定値は、前ページ「呼び出しかたの種類について」の【使用例】に記載の値を使用しています。



2 「個別 ON」を選択する

- ① [P](プログラム)キー、または[EDIT]キーを繰り返し短く押し、「個別 OFF」(初期設定時)表示を選択します。
- ② ツマミを回して、「個別 ON」を選択します。



個別呼び出し機能OFF

個別呼び出し機能ON

- ※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
- 次ページの手順(3~5)に記載する設定値は、前ページ「呼び出しかたの種類について」の【使用例】に記載の値を使用して説明しています。

5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

- ① [P] (プログラム) キー、または [EDIT] キーを繰り返し短く押し、「自局 0001」(初期設定時) 表示を選択します。
- ② ツマミを回して、自局番号を設定します。
 - 選択範囲: 0001～9999



自局番号表示
(表示例: 0001)

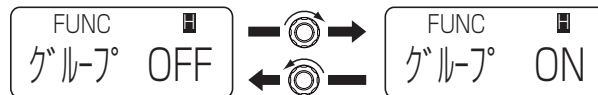
【設定例】

個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例: Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

Aさん(自局) : 0001 Bさん(相手局) : 0002
Cさん(相手局) : 0003 Dさん(相手局) : 0004

4 「グループ ON」を選択する

- ① [P] (プログラム) キー、または [EDIT] キーを繰り返し短く押し、「グループ OFF」(初期設定時) 表示を選択します。
- ② ツマミを回して、「グループ ON」を選択します。



グループ番号を使用しない

グループ番号を使用する

※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例: Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

5 グループ呼び出しのメンバー指定

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

- ① **[P]** (プログラム) キー、または **[EDIT]** キーを繰り返し短く押して、「グループ 01」(初期設定時) 表示を選択します。



- ② **ツマミ** を回して、指定するグループ番号を選択します。

- ③ 選択したグループ番号(例: グループ 02) を表示した状態で、**[FUNC/☎]** キーを長く押します。

- メンバー指定を意味する **☒** を表示します。

※複数のグループからの呼び出しを受けるときは、②と③の操作を繰り返します。



メンバー指定の状態

【メンバー指定するグループ番号の例】

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例: Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

Aさん(自局) : グループ02/グループ03

Bさん(相手局) : グループ02

Cさん(相手局) : グループ03

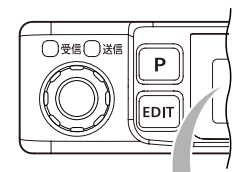
Dさん(相手局) : グループ03

6 変更した設定値を確定する

②～⑤の手順で変更した設定値を確定するために、**[PTT]** (送信) スイッチを押します。

- 詳細設定モードが解除され、設定した自局番号の表示(約1秒)後、「**[All]**」(全局)が表示されます。

※設定値を変更後に、**[EDIT]** キー、または **[P]** (プログラム) キーを押して、電源を入れなおしても、設定値が確定されます。



「**All**」(全局)を表示

【自局番号表示例】



(約1秒)



電源投入直後

自局番号表示例★

★自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/相手局番号/グループ番号)によって異なります。

5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには

相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※ 個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(※P17~P20)されているものとして説明しています。

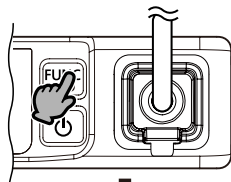
1 通話チャンネルを合わせる

- ① [FUNC/] キーを短く押します。

- 表示(例: CH5)が点滅します。

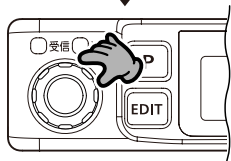


通話チャンネル表示
(表示例: 5チャンネル)



- ② ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲: 01~14、16~30

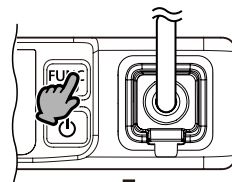


[All](全局)表示で、[PTT](送信)スイッチを押すと通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)、ユーザーコード、秘話機能の設定が同じすべての相手呼び出しできます。
あらかじめ、自局番号を通話相手に知らせるときなどに使用できます。

2 相手局番号を合わせる

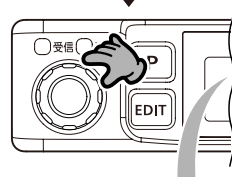
▶ 1局を呼び出すときは(個別呼び出し)

- ① [FUNC/] キーを繰り返し短く押して、「相手局番号」(初期設定時:0002)表示を選択します。
- ② ツマミを回して、相手の自局番号(例:0002)に合わせます。



【編集できる桁を変更するには】

- ① 「相手局番号」が表示された状態で、[EDIT]キーを短く押しごとに、編集できる桁が変わります。
- 編集できる桁が点滅します。



短く1回押したとき(例: 上位1桁目)

- ② ツマミを回して、相手局番号を選択します。
- ※ ほかの桁も編集するときには、①と②を繰り返します。
 - ※ [P](プログラム)キーを押すと、編集前の数字に戻ります。
- ③ [FUNC/] キーを短く押して、内容を確定します。
- 桁の点滅が点灯に変わります。



3 呼び出す

▶グループを呼び出すときは

- ① **[FUNC/🔊]**キーを繰り返し短く押し、「グループ番号」(初期設定時:01)表示を選択します。
- ② **ツマミ**を回して、呼び出しをする相手のグループ番号(例:02)に合わせます。

※通話相手の無線機側でメンバー指定(☑)をしていないグループ番号(☑P36)と同じ番号を選択して呼び出しをしても、その相手には、自分の音声がかんこえません。

ただし、その相手から最初に呼び出しがあったときは、相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示(☑P23)しますので、呼び出しを受ける前の表示に戻る(終話する)までに、**[PTT]**(送信)スイッチを押すと、応答できます。終話するまでのあいだに、送信と受信を交互にする(☑P6)ことで、通話をつづけられます。



- ① 呼び出す相手の番号が選択されていることを確認します。

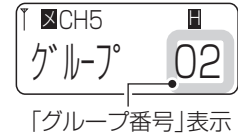
◎ **全局呼び出しをする場合**
「All」(全局)表示(例:CH 05)



◎ **個別呼び出しをする場合**
「相手局番号」表示
(例:相手0002)

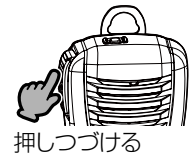


◎ **グループ呼び出しをする場合**
「グループ番号」表示
(例:グループ 02)



- ② **[PTT]**(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

● **[送信]**ランプが赤色に点灯します。



5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

4 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で【PTT】(送信)スイッチを押すと、応答できます。

◎ 全局呼び出しを受けたとき

相手局番号とALLを交互に点滅表示します。



◎ 個別呼び出しを受けたとき

相手局番号を点滅表示します。
ポケットビープ機能や呼び出しメロディー、または呼び出し着信音が設定されているときは、設定されたビープ音やメロディー音が鳴ります。(P34、P38)

※ 応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。



◎ グループ呼び出しを受けたとき

相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示します。



■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーやボタンに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

[FUNC/]キーを長く(約1秒)押します。

● ビープ音が「ピピッ」と鳴って、 を表示します。

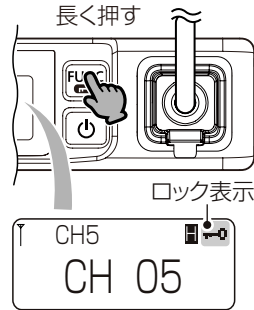
※ 同じ操作をすると、解除できます。

〈ロック中にできる操作〉

- ロック機能の解除
- 送信/受信の切り替え
- モニター機能のON/OFF
- 電源のON/OFFと音量調整★

★ 音量調整がロックされるように、詳細設定モード(☞P42)で変更できます。

※ エマージェンシーの設定が「ON」の場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。



■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声途切れるなどして、通話がつづけられない状態になると、「ピンポン」と通知音が鳴ります。

※ 通知音が鳴ったときは、場所を移動して通話してください。

受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、通知音は止まります。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P43)

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎ 受信音がない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき

◎ ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき

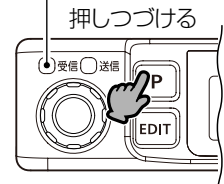
※ 他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。使用するには、詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作を「P長 モニタ」(☞P40)に設定してください。

【操作のしかた】

[P] (プログラム) キーを押しているあいだ、動作します。

[P] キーを押しているあいだ緑色で点灯



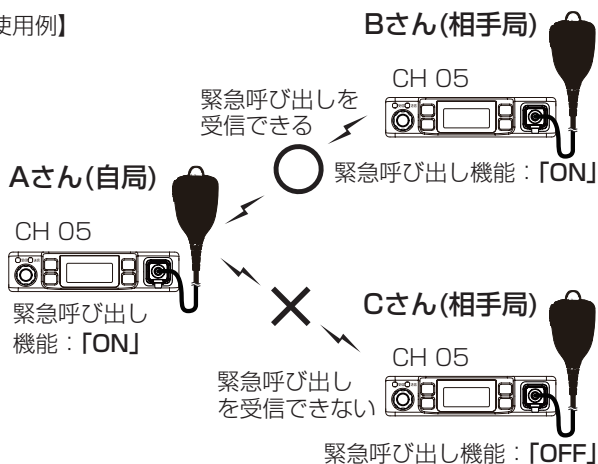
6 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

個別呼び出し機能による通話で、迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
詳細設定モードから設定を変更できます。(P39)

【使用例】



△ 警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

本製品にヘッドセットを取り付けて、緊急呼び出し機能を使用する場合は、ツマミを回して、音量が適切な位置になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

個別呼び出し機能(P36)と緊急呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。

設定されていないときは、緊急呼び出しの受信、または応答ができません。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

- ◎音量が最小に設定されている場合
- ◎電波状況の悪化により電波が届かない場合
- ◎「呼出CH(CH15)」を選択している場合
- ◎「上空用チャンネル(S1～S5)」を選択している場合
- ◎混信防止機能(P7)により送信制限された場合

【緊急呼び出しのしかた】

下記の操作をすると、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しします。

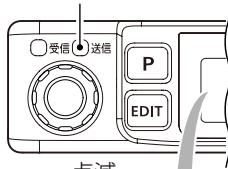
- ① 緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択します。

- ② 「緊急」が表示されるまで、マイクロホンの<緊急呼び出し>ボタンを長く(5秒以上)押します。

長く押す(5秒以上)



一定間隔で、赤色点滅



点滅



- 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに【送信】ランプが赤色に点滅します。

- ③ 応答があると、警告音が停止して、【受信】ランプが緑色に点灯します。

また、応答した相手の個別番号が表示されます。(例:相手0002)



- ④ 待ち受け状態になったら、【PTT】(送信)スイッチを押して、交信をつづけます。

- 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

- ① 警告音が「ピピピ…」と鳴って、【送信】ランプが赤色に点滅します。

また、「緊急」と「相手局番号」を交互に表示します。

- ② 【PTT】(送信)スイッチを押して、応答します。

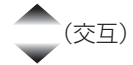
- 警告音が停止します。

- ③ 交信をつづけます。

- 終話すると、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。



点滅



(例:相手0004)

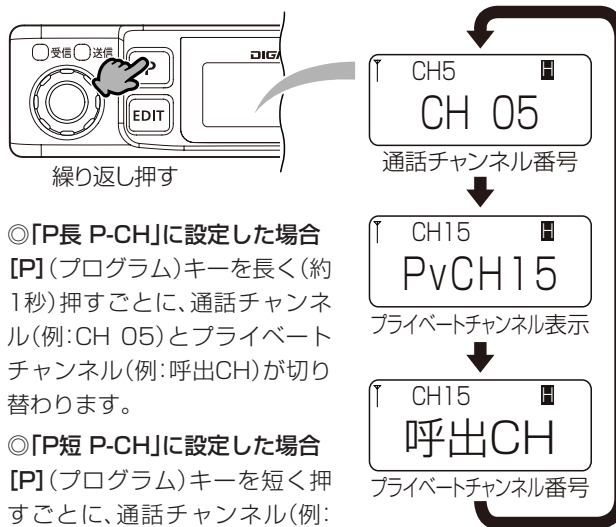
6 そのほかの機能について

■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネルをプライベートチャンネル(例:呼出CH)に設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)との切り替えが簡単になります。

- ※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。操作をする前に、詳細設定モードで、[P] (プログラム)キーの動作(☞P40)を「P短 P-CH」、または「P長 P-CH」に設定してください。
- ※ 工場出荷時や全設定初期化時、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P39)
- ※ プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、[P] (プログラム)キーの操作は無効です。

【操作のしかた】



■ プライベートチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)を受信しながら、プライベートチャンネル番号(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
操作の前に、詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作(☞P40)を「P短 PRI」、または「P長 PRI」に設定してください。

【操作のしかた】

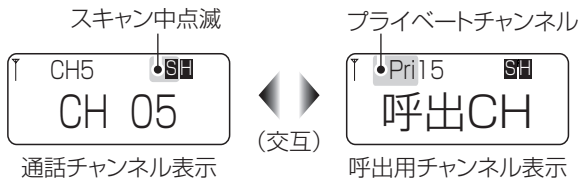
◎「P長 PRI」に設定した場合

[P] (プログラム) キーを長く (約1秒) 押します。

◎「P短 PRI」に設定した場合

[P] (プログラム) キーを短く押します。

「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。



プライベートチャンネルスキャンを解除するには】

[EDIT] キー、または [FUNC/☞] キーを押します。

※ スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。

※ 電源を入れなおしても、解除されません。

【プライベートチャンネルスキャンの動作について】

- ◎ プライベートチャンネルスキャン中は「S」が表示され点滅します。
- ◎ プライベートチャンネル番号に秘話キーが設定されているときは、スキャン中に、「P」が表示されます。
- ◎ プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。
- ◎ スキャン中は、通話チャンネルで待ち受け中、2秒ごとにプライベートチャンネルをスキャンします。
スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。
- ◎ 電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間とスキャン再開時間の設定にしたがってスキャンします。(☞P41)
このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。
- ◎ スキャンが一時停止中は、[P] (プログラム) キーでスキャンを再開できます。
- ◎ プライベートチャンネル(☞P39)に上空用チャンネル(S1～S5)が設定されている場合は、上空用チャンネルをプライベートチャンネルスキャンの対象にできます。
- ◎ スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

6 そのほかの機能について

■ メモリーチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネルと、詳細設定モードで設定したチャンネルを順次切り替える機能です。

- ※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。操作の前に、詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作(☞P40)を「P短 MC」、または「P長 MC」に設定してください。
- ※ メモリーチャンネルスキャンをお使いになる前に、「スキャンするチャンネルの設定」(☞P40)でスキャンの対象にする通話チャンネルを設定してください。

【操作のしかた】

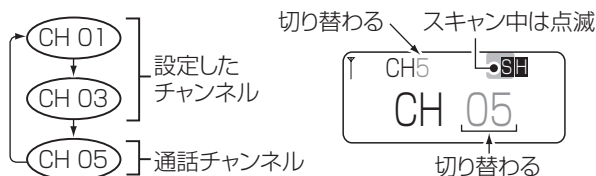
◎「P長 MC」に設定した場合

[P] (プログラム) キーを長く (約1秒) 押します。

◎「P短 MC」に設定した場合

[P] (プログラム) キーを短く押します。

【メモリーチャンネルスキャンのイメージ】



【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】

[EDIT] キー、または [FUNC/☞] キーを押します。

- ※ スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。
- ※ 電源を入れなおしても、解除されません。

【メモリーチャンネルスキャンの動作について】

- ◎ 設定したチャンネルが1件だけで、その番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。
- ◎ スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。
- ◎ 電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間(☞P41)とスキャン再開時間(☞P41)の設定にしたがってスキャンしません。このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。
- ◎ スキャンが一時停止中は、[P] (プログラム) キーでスキャンを再開できます。
- ◎ 上空用チャンネル(S1～S5)が設定(☞P43)されている場合は、上空用チャンネルをメモリーチャンネルスキャンの対象に設定(☞P40)できます。
- ◎ スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

■ ポケットビープ機能

下記の呼び出しを受けたとき、有効になる機能です。

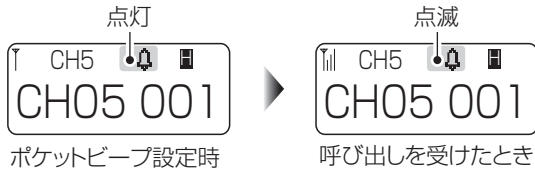
このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーやスイッチの操作で、停止できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P34)

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】

🔔 の点滅とビープ音でお知らせします。

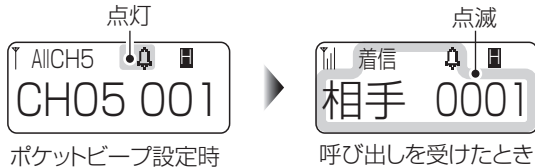


【個別呼び出しによる呼び出しを受けたとき】

ビープ音でお知らせします。

※ ユーザーコードと併用したときも同じです。

※ ポケットビープ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、🔔 の点滅だけになります。



■ 呼び出しメロディー機能

ポケットビープ機能で呼び出しを受けたときの呼び出し音をメロディー音(9種類)に設定できます。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーの操作で、停止できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P34)

※ 呼び出しを受けたときの表示は、ポケットビープ機能と同じです。

【呼び出し着信音を使用すると】


個別番号(0001~0010の10局)、グループ番号(01~10の10局)ごとに、異なる呼び出し音が設定できます。(☞P38)

■ 送信出力の切り替え

[EDIT]キーを長く(約1秒)押すごとに、「5W(High)」/「1W(Low)」を切り替えられます。

◎ 5W(High)は「

◎ 通話相手との距離が近いときは、1Wで使用すると、消費電力を節約できます。

※ 上空用チャンネル(☞Pi、P43)表示(S1~S5)のときは、「

変換 送信

P

EDIT

長く押し

↑ CH5 🔔 📶

CH 05

送信出力表示

6 そのほかの機能について

■ 着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号が記憶されます。

記憶された相手局番号は、呼び出しに利用できます。

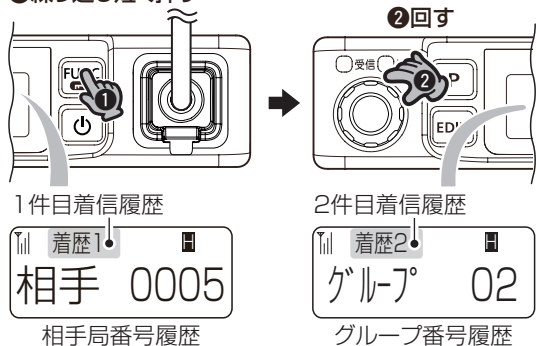
※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P37)

【着信履歴の確認と呼び出しについて】

- ① [FUNC/] キーを繰り返し短く押し、「着歴1」表示を選択します。
- ② 着信履歴が2件以上の場合、「着歴1」表示の状態では、ツマミを回すと、確認できます。
※「着歴1」から順に最新の履歴となるように記憶します。
- ③ 呼び出す相手、またはグループの番号を表示した状態で、[PTT] (送信) スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。
 - [送信] ランプが赤色に点灯します。

① 繰り返し短く押す



【着信履歴の内容や件数に異常があると思われるときは】

詳細設定モードの着信履歴消去(P38)から履歴を消去してください。

それでも改善しない場合は、全設定を初期化(P44、P47)してください。

【着信履歴件数と履歴の消去について】

※ 最大10件の着信履歴を記憶できます。

10件を超えると、古い着信履歴から削除されます。

※ 全局呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

※ 着信履歴の消去(P38)は、詳細設定モードからできます。

■ 設定項目一覧

設定モード、または詳細設定モードから、本製品の各機能を変更する方法について説明します。

各機能は、運用状況に応じて、以下の参照ページからお好みの設定に変更できます。

欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

機能名称	名称表示	初期値	参照
①ポケットビープ	Pビープ	OFF	P34
②呼び出しメロディー★ ¹	MELO	1	P34
③送信モニター	TXBP	ON	P35
④終話信号受信ビープ	終BP	ON	P35
⑤秘話	秘話	CH共	P35
⑥マイクゲイン	マイクG	0	P35
⑦ユーザーコード	UC	CH共	P35
⑧個別呼び出し	個別	OFF	P36
⑨自局番号設定★ ²	自局	0001	P36
⑩相手局番号表示★ ²	相手	ON	P36
⑪グループ番号表示★ ²	グループ(FUNC)	OFF	P36
⑫メンバー指定★ ²	グループ(リスト)	01	P37
⑬着信履歴★ ²	着歴	OFF	P37
⑭終話後表示★ ²	終表	話前	P37
⑮着信履歴消去★ ²	履歴	---	P38
⑯呼び出し着信音★ ² ★ ³	相手0001～ 相手0010、 グループ01～ グループ10	OFF	P38

★1 ポケットビープ(①)の設定が「MELO」のとき、設定できます。

★2 個別呼び出し(⑧)の設定が「ON」のとき、設定できます。

★3 ポケットビープ(①)の設定が「OFF」のとき、設定できます。

機能名称	名称表示	初期値	参照
⑰エマージェンシー	EMER	OFF	P39
⑱プライベートチャンネル	PvCH	ON	P39
⑲プライベートチャンネル番号★ ⁴	CH	呼出	P39
⑳[P] (プログラム)キー短押し	P短	ホーム	P40
㉑[P] (プログラム)キー長押し	P長	P-CH	P40
㉒スキャンするチャンネル★ ⁵	CH	01	P40
㉓スキャン停止時間★ ⁶	停止	10S	P41
㉔スキャン再開時間★ ⁶	再開	5S	P41
㉕通話後スキャン動作★ ⁶	話後	解除	P41
㉖キーロック時の音量操作	ロック	VOL	P42
㉗外部スピーカー	EXSP	AUTO	P42
㉘チャンネル番号音声案内	案内	ON	P42
㉙受信電波強度通知	受通	OFF	P43
㉚上空用チャンネル	SkyR	OFF	P43
㉛LCDコントラスト	LCD	12	P43
㉜LCDバックライト	ライト	ON	P43
㉝LCDバックライト輝度	輝度	4	P43
㉞全設定初期化	リセット	NO	P44

★4 プライベートチャンネル(⑱)の設定が「ON」のとき、設定できます。

★5 [P] (プログラム)キー短押し(㉒)、または[P] (プログラム)キー長押し(㉑)の設定が「MC」のとき、設定できます。

★6 [P] (プログラム)キー短押し(㉒)、または[P] (プログラム)キー長押し(㉑)の設定が「PRI」、または「MC」のとき、設定できます。

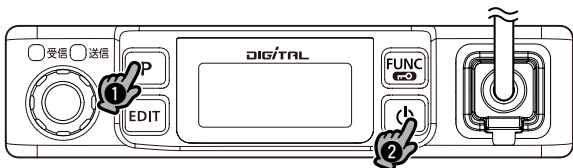
7 各種機能の設定

■ 設定モードに移行するには

マイクゲイン、外部の設定と着信履歴の消去に使用します。

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [P] (プログラム) キーを押しながら、[⏻] (電源) キーを押しつづけます。

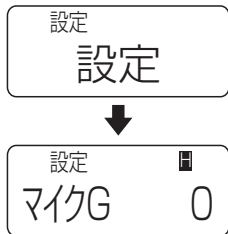


①を押しながら、②を長く押す

- ③ 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

● 「マイクG」が表示されると、設定モードに移行しています。

※ 設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

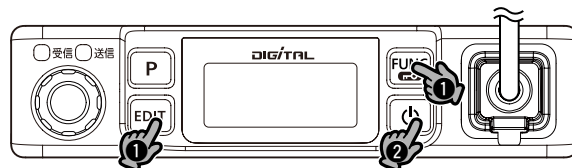


■ 詳細設定モードに移行するには

すべての機能(※P32)が変更できます。

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [EDIT] キーと[FUNC/] キーを同時に押しながら、[⏻] (電源) キーを押しつづけます。

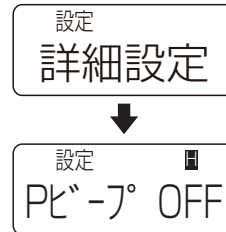


①を同時に押しながら、②を長く押す

- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

● 「Pピープ」が表示されると、詳細設定モードに移行しています。

※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

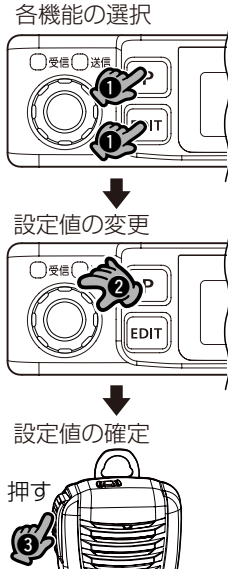


■ 設定のしかた

設定モード、または詳細設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

- ① **[P]** (プログラム) キー、または **[EDIT]** キーを繰り返し短く押し、設定項目(①～③4 ※P32)を選択します。
- ② 目的の機能名称で、**ツマミ**を回します。
 - 設定値が切り替わります。
 - ※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。
- ③ **[PTT]** (送信) スイッチを押します。
 - 選択した設定値を確定し、設定モード、または詳細設定モードが解除されます。
 - ※設定値を変更後に、**[P]** (プログラム) キー、または **[EDIT]** キーを押して、電源を切った場合でも、設定値が確定されます(③4全設定初期化を除く)。
 - ※設定モード、または詳細設定モードを解除するまで通話できません。



■ 設定項目について

① ポケットビープ

(初期設定値: OFF)

ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。



- OFF : ポケットビープを使用しない
- 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- P1 - : 「ピー」と音が1回鳴る
- PPP : 「ピピピ」と音が1回鳴る
- MELO : [呼び出しメロディー] (②) で設定したメロディー音が鳴る

※ グループ、または全局呼び出しを受けたときは、ポケットビープが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

② 呼び出しメロディー

(初期設定値: 1)

ポケットビープ着信時のメロディー音を設定します。

- 選択範囲: 1～9
- ※ [Pビープ] (①ポケットビープ) を「MELO」に設定したとき表示されます。



7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

③送信モニター

(初期設定値:ON)

[PTT] (送信) スイッチを押したときのビーブ音について設定します。

- ON :ビーブ音(ピッ)が鳴る
- OFF :ビーブ音(ピッ)が鳴らない

※ 送信できない場合など、禁止されている操作は、設定に関係なく、音色の異なるビーブ音が鳴ります。



④終話信号受信ビーブ

(初期設定値:ON)

通話相手の終話信号を受信したときのビーブ音について設定します。

- ON :ビーブ音(ピッ)が鳴る
- OFF :ビーブ音(ピッ)が鳴らない



⑤秘話

(初期設定値:CH共)

通話チャンネル共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを設定します。

- CH共 :通話チャンネル共通の秘話キーを使用する
- CH毎 :通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用する



⑥マイクゲイン

(初期設定値:0)

マイクロホンの感度を設定します。

- 選択範囲: -15(低)~0(中)~9(高) 3dB単位

※ 周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。



⑦ユーザーコード

(初期設定値:CH共)

通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- UC共 :通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する
- UC毎 :通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する



⑧個別呼び出し

(初期設定値:OFF)

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。



- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

⑨自局番号設定

(初期設定値:0001)

この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。



- 選択範囲: 0001~9999

※ [個別] (⑧個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。

【編集できる桁を変更するには】

- ① [EDIT] キーを長く (約1秒) 押します。
 - 上位1桁目が点滅します。



- ② 上位2桁目以降は、[EDIT] キーを繰り返し短く押します。
- ③ 編集を終了するときは、[P] (プログラム) キーを短く押しします。
 - 桁の点滅が点灯に変わります。

※ [FUNC/] キーを長く押すと、編集前の数字に戻ります。

⑩相手局番号表示

(初期設定値:ON)

[FUNC/] キーを繰り返し短く押したとき、個別呼び出しする相手の自局番号を選択する項目の表示について設定します。



- ON : 表示する
- OFF : 表示しない

※ [個別] (⑧個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。

⑪グループ番号表示

(初期設定値:OFF)

[FUNC/] キーを繰り返し短く押したとき、グループ呼び出しをする相手のグループ番号を選択する項目の表示について設定します。



- OFF : 表示しない
- ON : 表示する

※ [個別] (⑧個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

⑫メンバー指定 (初期設定値:01)

この項目でメンバー指定したグループ番号でグループ呼び出しを受けると着信します。

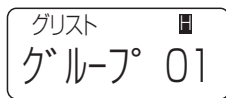
- 点灯 : 指定する
- 消灯 : 指定しない

※ [個別] (⑧個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。

【設定のしかた】

① ツマミを回して、グループ番号を選択します。

- 選択範囲:01~10



グループ番号選択

② [FUNC/🔍] キーを長く押し続けると、指定と解除が切り替わります。

- 指定すると、「」が点灯します。



メンバー指定

※メンバー指定をしていない(消灯)グループ番号でグループ呼び出しを受けても、着信しません。

⑬着信履歴 (初期設定値:OFF)

個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号やグループ番号を着信履歴(☎P31)として表示する設定です。



- OFF : 表示しない
- ON : 表示する

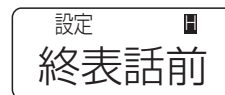
※ [個別] (⑧個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。

※着信履歴は、「着歴 OFF」のときも記憶されます。

⑭終話後表示 (初期設定値:話前)

通話を終了後、待ち受け状態での表示内容を設定します。

- 話前 : 通話前の表示に戻る
- CH : 通話チャンネル番号がツマミで変更できる状態(約10秒間)になったあと、通話チャンネル表示に戻る



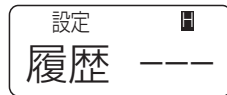
- ホーム : 通話チャンネル表示に戻る

※ [個別] (⑧個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。

15 着信履歴消去

(初期設定値: ---)

自局番号やグループ番号の変更により、着信履歴を個別呼び出しなどに利用できなくなった場合、その履歴を消去します。



- --- : [PTT] (送信) スイッチを押しても、消去されない
 - CLR : [PTT] (送信) スイッチを押すと、消去される
- ※ [個別] (8 個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。
- ※ [CLR] を選択後、[PTT] (送信) スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、着信履歴を消去して「---」に切り替わります。

16 呼び出し着信音

(初期設定値: OFF)

個別番号、グループ番号ごとに、異なる呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF : 使用しない
- 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- PIー : 「ピー」と音が1回鳴る
- PPP : 「ピピピ」と音が1回鳴る
- X0ディ1~9 : 設定した番号のメロディー音が鳴る

16 呼び出し着信音(つづき)

- ※ [Pビー] (1 ポケットビー) を「OFF」に設定したとき表示されます。
- ※ グループ、または全局呼び出しを受けたときは、ポケットビーブが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

【設定のしかた】

- ① ツマミを回して、個別番号、またはグループ番号を選択します。
 - 選択範囲: 個別0001~個別0010、グループ01~グループ10
- ② [FUNC/] キーを短く押しします。
 - 「OFF」(初期設定値)が表示されます。
- ③ ツマミを回して、呼び出し着信音を選択します。
- ④ [FUNC/] キーを短く押しします。
 - ※ほかの番号も設定するときは、①~④を繰り返します。



相手局番号(選択例)



グループ番号(選択例)

↓
選択した番号の表示



着信音(設定例)

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

⑰ エマージェンシー

(初期設定値:OFF)

緊急呼び出し(エマージェンシー)機能の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※緊急呼び出し機能を使用するには、この機能と個別呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。



⑱ プライベートチャンネル

(初期設定値:ON)

プライベートチャンネル機能を設定します。

- ON :使用する
- OFF :使用しない

※「ON」に設定すると、[P] (プログラム)キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。



⑲ プライベートチャンネル番号

(初期設定値:呼出)

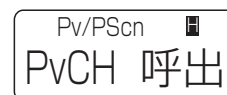
通話チャンネル、または上空用チャンネル(S1~S5)からプライベートチャンネルにする番号を設定します。

- 選択範囲:01~14、呼出、16~30、S1~S5

※[PvCH](⑲プライベートチャンネル)を「ON」に設定したとき表示されます。

※上空用チャンネルをプライベートチャンネルに設定する場合は、[SkyR](⑳上空用チャンネル)を「ON」に設定してください。

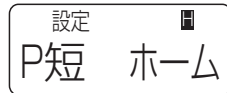
※上空用チャンネルをプライベートチャンネルに設定した状態で、[SkyR](⑳上空用チャンネル)を「OFF」に設定すると、プライベートチャンネルは、「CH呼出」(呼出用チャンネル:CH15)に設定されます。



⑳ [P] (プログラム) キー短押し

(初期設定値: ホーム)

[P] (プログラム) キーを短く押したときの動作を設定します。



㉑ [P] (プログラム) キー長押し

(初期設定値: P-CH)

[P] (プログラム) キーを長く押したときの動作を設定します。



- 無効 : 動作しない
- PRI : プライベートチャンネルスキャンの開始
- MC : メモリーチャンネルスキャンの開始
- 案内 : 通話チャンネル番号の読み上げ
- CH : 通話チャンネル番号表示と周波数表示を切り替える
- P-CH : 通話チャンネル番号表示とプライベートチャンネル番号表示を切り替える
- ホーム : 通話チャンネル表示に戻す
- モニタ : 押し続けているあいだだけモニター機能 (P24) が動作する (㉑ [P] (プログラム) キー長押しに対して設定できます。)

- ※ 「PRI」選択時、プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。
- ※ 「MC」選択時、設定したチャンネルが1件だけの場合、そのチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

㉒ スキャンするチャンネルの設定

(初期設定値: 01)

メモリーチャンネルスキャンの対象にする通話チャンネルを設定します。

※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「MC」に設定したとき表示されます。

【設定のしかた】

- ① ツマミを回して、スキャンの対象にする通話チャンネル番号を選択します。



通話チャンネル番号選択

- 選択範囲: 01~14、呼出、16~30、S1~S5

- ② [FUNC/ON] キーを長く押しごとに、指定と解除が切り替わります。



スキャンチャンネル指定

- 指定すると、「S」が点灯します。

※ 上空用チャンネルをメモリーチャンネルスキャンの対象とする場合は、[SkyR] (㉓ 上空用チャンネル) を「ON」に設定してください。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

㊸ スキャン停止時間

(初期設定値: 10S)

電波を受信中、プライベートチャンネルスキャン、またはメモリーチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

SCAN 
停止 10S

● 選択範囲: 2S ~ 20S (2秒単位)、保持

※ [P] (プログラム)キー短押し、または [P] (プログラム)キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

※ 電波を受信中に、スキャン停止時間(2S ~ 20S)が経過すると、スキャンを再開します。

なお、スキャン停止時間(2S ~ 20S)が経過する前に電波が途切れたときは、スキャン再開時間の設定にしたがってスキャンを再開します。

※ 「保持」を設定したときは、待ち受け状態になるまで、スキャンを停止します。

㊸ スキャン再開時間

(初期設定値: 5S)

スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

SCAN 
再開 5S

● 即時 : すぐにスキャンを再開

● 1S ~ 5S : 設定時間(秒)後にスキャンを再開

● シナイ : スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンを再開しない

※ 電源を入れなおすと、スキャンを再開できます。

※ [P] (プログラム)キー短押し、または [P] (プログラム)キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

㊸ 通話後スキャン動作

(初期設定値: 解除)

スキャン中、[PTT] (送信)スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

SCAN 
話後 解除

● 解除 : スキャンを解除

● 再開 : 数秒後、スキャンを再開

※ [P] (プログラム)キー短押し、または [P] (プログラム)キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

②⑥キーロック時の音量操作

(初期設定値:VOL)

ロック機能動作中の音量操作についての設定です。

- VOL : 音量操作を有効にする
- 全キー : 音量操作を無効にする

**〈ロック中にできる操作〉**

- ロック機能の解除
- 送信/受信の切り替え
- モニター機能のON/OFF
- 電源の「入」/「切」

※エマージェンシーの設定が「ON」の場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。

【設定変更時のご注意】

ロック機能が「ON」で電源を切り、詳細設定モードに移行して、[キーロック時の音量操作]の設定を変更したときだけ、ロック機能が「OFF」になります。

②⑦外部スピーカー

(初期設定値:AUTO)

外部スピーカーを接続したとき、スピーカーマイクから音を出力するかどうかの設定です。

- AUTO : 外部スピーカーだけに音を出す
- ON : 外部スピーカーとスピーカーマイクの両方から音を出す
- FMIC : スピーカーマイクだけに音を出す

【ご注意】

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続した場合、外部スピーカーから音が出ないことがあります。
※別売品(※8章)のスピーカーをご使用ください。

**②⑧チャンネル番号音声案内**

(初期設定値:ON)

通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。

- ON : 電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択されたチャンネル番号を読み上げる
- OFF : 使用しない

※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、「呼び出し」と読み上げます。

※上空用チャンネル(CH S1~CH S5)選択時は、チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。



7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

②⑨受信電波強度通知

(初期設定値:OFF)

受信電波強度通知機能の設定です。

- OFF:通知しない
- ON:通話がつづけられない状態
まで受信信号の強度が弱く
なると、通知音(ピンポン)が鳴る

設定 
受通 OFF

③⑩上空用チャンネル

(初期設定値:OFF)

上空用チャンネル(S1~S5)の使用を設定します。

- OFF:使用しない
- ON:使用する

※「ON」に設定すると、通話チャンネルから選択できます。

※ 上空用チャンネルでは、送信できません。

設定 
SKyR OFF

③⑪LCDコントラスト

(初期設定値:12)

表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。

- 選択範囲:0(淡)~25(濃)

※ [FUNC/] キーを長く押すと、初期設定値に戻ります。


設定 
LCD 12

③⑫LCDバックライト

(初期設定値:ON)

送信以外の操作をすると、表示部とキーの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- ON:自動点灯する
- OFF:点灯しない
- AUTO:送信以外の操作すると、照明が約5秒間点灯する


設定 
ライト ON

③⑬LCDバックライト輝度

(初期設定値:4)

表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲:1~7

設定 
輝度 4

④全設定初期化

(初期設定値:NO)

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

設定	<input type="checkbox"/>
リセット	NO

- NO : [PTT] (送信)スイッチを押しても、初期化しない
 - YES : [PTT] (送信)スイッチを押すと、初期化する
- ※ 「YES」を選択後、[PTT] (送信)スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

【ご注意】

設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

本製品を便利にお使いいただくため、下記の別売品をご用意しています。

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧表

弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> でも、別売品についてご覧いただけます。

★：IP54の防塵/防水性能になります。

マイクロホン関係

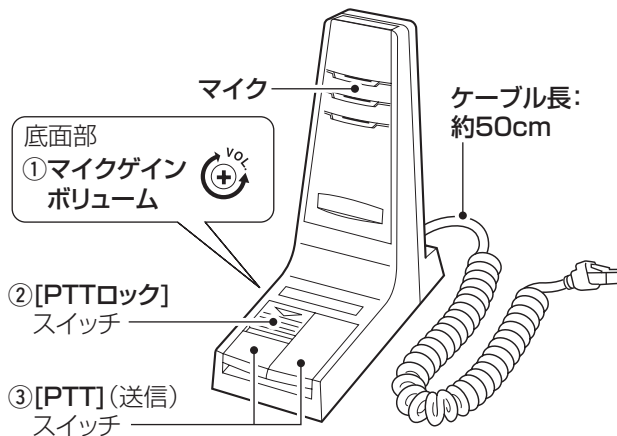
AM-5	:アーム型マイクロホン(磁石付き基台)
SM-28	:デスクトップマイクロホン
HM-204*	:防水スピーカーマイクロホン(補修用)
HM-206 #02*	:コマンドマイク
OPC-647	:マイクロホン延長ケーブル(約2.5m) ※AM-5、SM-28、HM-204、HM-206 #02のいずれかでお使いになれます。 なお、IC-DPR100、HM-204、HM-206 #02に接続したときは、IP54の防塵/防水性能を維持できません。

外部スピーカー/外部電源

SP-30	:外部スピーカー(20W/4Ω、ケーブル長:約2.8m)
SP-35	:外部スピーカー(5W/4Ω、ケーブル長:約2m)
PS-230A	:卓上電源装置(スピーカー内蔵:7W/8Ω)

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。
※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せてご用意ください。



①マイクゲインボリューム

マイクロホンとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

※IC-DPR100の詳細設定モードでも調整できます。(※P35)

② [PTTロック]スイッチ

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT] (送信) スイッチ (③) がロックされ、ハンズフリーで送信できます。ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③ [PTT] (送信) スイッチ

押ししているあいだは送信状態、はなすと受信状態に戻ります。

■ AM-5 (アーム型マイクロホン)

エレクトレット形コンデンサーマイクロホンです。

※外部スピーカー (別売品: SP-30、SP-35) と併せてご用意ください。

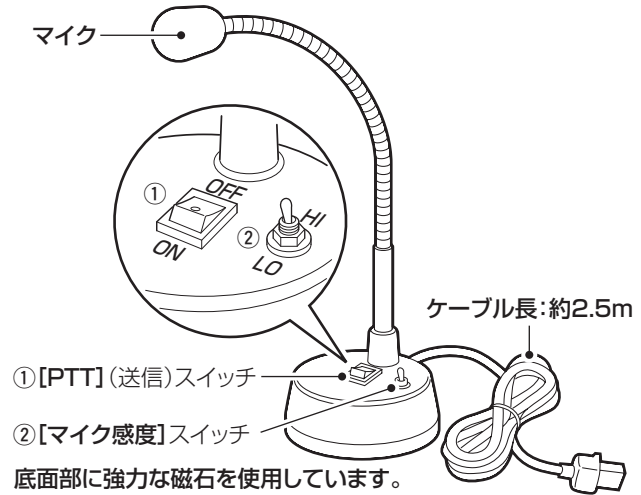
AM-5の底面部には、強力な磁石を使用しています。

△警告

心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位の上にマイクロホンの底面部を近づけたり、当てたりしないでください。電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

△注意

時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。



① [PTT] (送信) スイッチ

② [マイク感度] スイッチ

底面部に強力な磁石を使用しています。

① [PTT] (送信) スイッチ

「ON」にすると送信、「OFF」にすると受信状態になります。

② [マイク感度] スイッチ

「HI」にすると感度が高くなり、「LO」にすると低くなります。
※マイクロホンとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、切り替えてください。

※IC-DPR100の詳細設定モードでも調整できます。(※P35)

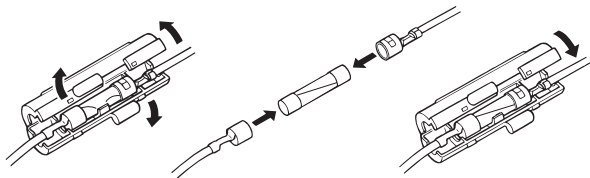
■ 日常のお手入れと点検について

- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
- ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎ 音量が最小に調整されていないか、ツマミを回して、表示部の音量レベル（※P4）を確認してください。
- ◎ 車載でご使用になるときは、アンテナが確実に固定されていることを点検してください。

■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル（付属品）には、2本のヒューズ（125V/5A）が使用されています。

※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの（付属品）と交換してください。



■ 初期状態に戻す（リセットする）には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

【操作のしかた】

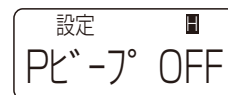
- ① 詳細設定モードに移行します。（※P33）
 - 「Pビープ OFF」を表示します。
- ② [EDIT] キーを1回押します。
 - 「リセット NO」を表示します。
- ③ ツマミを回して、「リセット YES」表示を選択します。
- ④ [PTT]（送信）スイッチを短く押します。
 - 設定値がリセットされ、無線機が再起動します。

【ご注意】

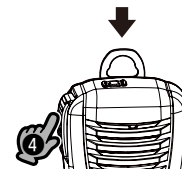
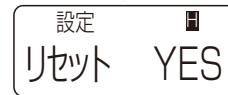
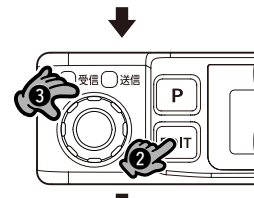
設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどして、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

- ① 詳細設定モードに移行する



移行直後の表示（例：OFF）



■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(☎P49)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	バッテリー、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P47
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P4
	外部スピーカーの設定が正しくない 防水スピーカーマイクロホン(付属品)、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない	詳細設定モードで、外部スピーカーの設定を確認する 防水スピーカーマイクロホン、または外部スピーカーが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	P42 —
送信できない (ブプッ・・・が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎたとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P7
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	[受信]ランプ(緑色)が消灯してから送信する	P7
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P5
	ユーザーコードを設定していない	相手と同じユーザーコードを設定する	P8
	相手が秘話機能を使用していない、または自分と秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P16
	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P21、 P22
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P7
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の設定ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)に変更する	P5
「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P24
モニター機能が使用できない	モニター機能を[P](プログラム)キーで動作するように設定していない。	詳細設定モードで、[P](プログラム)キー長押し動作を「モニタ」に設定する	P40
スキャン機能が使用できない	スキャン機能を[P](プログラム)キーで動作するように設定していない。	詳細設定モードで、[P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押し動作を「PRI」、 「MC」に設定する	P40

9 ご参考に

■ 従来製品との相互使用について

従来製品と相互に使用するときは、下記の弊社製無線機をお使いください。
(2015年2月現在)

◎ IC-DPR1★ ◎ IC-DPR5★ ◎ IC-DPR6 ◎ IC-DPR3

★本製品の緊急呼び出し機能(エマージェンシー)を使用する場合は、相互使用できません。

■ アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P48)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

■ 無線機本体

- ◎送信周波数範囲:351.20000~351.38125MHz
- ◎受信周波数範囲:351.16875~351.38125MHz
- ◎チャンネル数:30チャンネル(送信)
30+5チャンネル★¹(受信)
- ◎アンテナインピーダンス:50Ω(不平衡)
- ◎電波型式:F1C/F1E/F1D/F1F
- ◎変調方式:4値FSK
- ◎使用温度範囲:-20~+60℃
- ◎電源電圧:DC13.8V±10%/DC26.4V±10%
- ◎接地方式:マイナス接地
- ◎消費電流:[DC13.8V時] 2.0A(送信時:5W)
1.3A(受信時)★²
0.7A(待ち受け時)
[DC26.4V時] 1.5A(送信時:5W)
0.8A(受信時)★²
0.5A(待ち受け時)
- ◎送信出力:5W/1W(偏差:+20%、-50%)
- ◎低周波出力:4W以上(4Ω、10%ひずみ時)
- ◎受信方式:ダブルスーパーヘテロダイン方式
- ◎受信感度:-3dBuVemf以下★³
+5dBuVemf以下★⁴
- ◎外形寸法:125(W)×29(H)×180(D)mm★⁵
- ◎重量:約900g(付属品を除く)

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

■ HM-204(防水スピーカーマイクロホン)

- ◎使用温度範囲:-20~+60℃
- ◎低周波出力:0.7W以上(8Ω、10%ひずみ時)
- ◎低周波出力インピーダンス:8Ω
- ◎外形寸法:64.4(W)×90.5(H)×33.5(D)mm★⁵
- ◎重量:約190g

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

- ★¹ 上空用チャンネル(S1~S5)
- ★² 4Ω負荷、音量最大時
- ★³ BER=1×10⁻² スタティック時
- ★⁴ BER=3×10⁻² フェージング時
- ★⁵ 突起物を除く

さくいん

数字

1局を呼び出す	21
1分	34、38
3R	ii
3回	34、38
30回	34、38

A

All(全局)	21
AMBE+2™方式	i
AUTO	42、43

C

CH	32、37、40
CH毎	35
CH共	35
CLR	38

E

EDIT	2
EMER	32
EXSP	32

F

FMIC	42
FUNC	2

I

IP54	iii
------	-----

L

LCD	32
LCDコントラスト	43
LCDバックライト	43
LCDバックライト輝度	43

M

MC	40
MELO	32、34

P

P-CH	40
PIー	34、38
PPP	34、38
PRI	40
PTT	2
PvCH	32
P(プログラム)キー	1、40
P短	32
P長	32
Pビープ	32

S

SkyR 32

T

TXBP 32

U

UC 8、32
UC毎 35
UC共 35

あ

アーム型マイクロホン 46
相手 32
相手局番号 21
相手局番号表示 36
アフターサービス 49
アンテナ iii
案内 32、40

え

エマージェンシー 25、39

お

音声案内機能 4

か

解除 41
外部スピーカー 42
簡単ご利用ガイド 56

き

キーロック時の音量操作 42
輝度 32
キャリアセンス 7
緊急呼び出し機能 25

く

グループ 32
グループ番号 20
グループ番号表示 36
グループ呼び出し 17、22
グループ呼び出しを受けたとき 23
グループを呼び出す 22

こ

個別 32
個別呼び出し 17、22、36
個別呼び出しを受けたとき 23
混信防止 7

さくいん

さ	そ
再開…………… 32、41	相互使用…………… 49
し	送信時間制限装置…………… 7
自局…………… 32	送信出力の切り替え…………… 30
自局番号…………… 19、36	送信モニター…………… 35
シナイ…………… 41	即時…………… 41
終BP…………… 32	た
終表…………… 32	卓上電源装置…………… 45
終話後表示…………… 37	ち
終話信号受信ビーブ…………… 35	着信履歴…………… 37
受信電波強度通知機能…………… 24、43	着信履歴機能…………… 31
受通…………… 32	着信履歴消去…………… 38
上空用チャンネル…………… i、43	着歴…………… 31、32
詳細設定モード…………… 33	チャンネル番号音声案内機能…………… 4、42
す	つ
スキャン再開時間…………… 41	通話後スキャン動作…………… 41
スキャンするチャンネルの設定…………… 40	通話チャンネル…………… 5
スキャン停止時間…………… 41	通話範囲…………… 7
せ	ツマミ…………… 1
設定モード…………… 33	
全局呼び出し…………… 17、22	
全局呼び出しを受けたとき…………… 23	
全設定初期化…………… 44	

て

停止..... 32
 デスクトップマイクロホン..... 45
 電波干渉..... 7
 電波法..... iii
 電波利用料..... iii

と

盗聴防止..... 12

ひ

ヒューズの交換..... 47
 秘話..... 32
 秘話キー..... 15
 秘話機能..... 12-16、14、35

ふ

プライベートチャンネル機能..... 27、39
 プライベートチャンネルスキャン機能..... 28
 プライベートチャンネル番号..... 39

へ

別売品..... 45

ほ

防塵形..... ii
 防まつ形..... ii
 ホーム..... 37、40
 ポケットビープ機能..... 30、34
 保持..... 41

ま

マイクG..... 32
 マイクゲイン..... 35

め

メモリーチャンネルスキャン機能..... 29
 メロディー..... 34、38
 メンバー指定..... 20、37

も

モニタ..... 40
 モニター機能..... 24

ゆ

ユーザーコード..... 8、10、35

さくいん

よ

呼出CH	5
呼び出し着信音	30、38
呼び出しメロディー機能	30、34
呼出用チャンネル	i

ら

ライト	32
-----------	----

り

陸上用チャンネル	i
リセット	32、44、47
履歴	32

れ

連続	34、38
----------	-------

ろ

ロック	32
ロック機能	24
ロック中にできる操作	42

わ

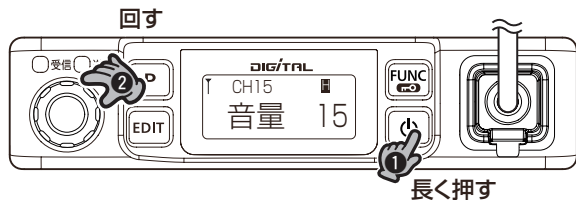
話後	32
話前	37

ICOM

簡単ご利用ガイド IC-DPR100

このガイドは、本製品をはじめてお使いになるかたの手に登録状が届いたあと、すぐに通話を開始するための操作手順を説明しています。
※ 破線に沿って切り取り、折り畳んでいただくことにより、携帯できる大きさになります。

1. 電源を入れ、音量を調整する (①、②の順で操作)



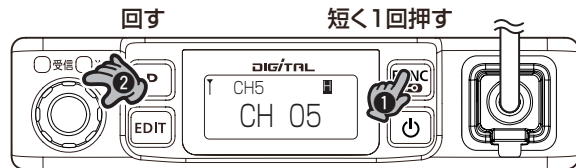
2. 通話チャンネルを合わせる (①、②の順で操作)

【通話チャンネルが決まっている場合】

相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲: 01~14、16~30

※ 通話チャンネルが異なるときは、通話できません。



2. 通話チャンネルを合わせる(つづき)

【通話チャンネルが決まっていない場合】

「呼出CH」(呼出用チャンネル: CH15)に合わせます。



〈呼出用チャンネルについて〉

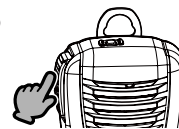
このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用します。
ユーザーコードや秘話機能を使用できません。

「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話してください。

3. [PTT](送信)スイッチを押しつづける

「ピッ」と鳴ったら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [送信]ランプが赤色に点灯します。
- ※ [PTT](送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

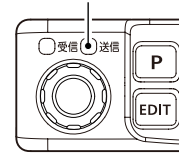


赤色で点灯

4. 相手の音声を受信する

相手局が送信し、その信号を受信すると、音声聞こえます。

- [受信]ランプが緑色に点灯します。



切り取り線

5. 通話をつづける

【通話チャンネルが決まっている場合】

送信と受信は交互に繰り返して通話をつづけます。



【通話チャンネルが決まっていない場合】

- ① 空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を通話相手に伝えて、[PTT] (送信)スイッチをはなします。
- ② 相手に伝えた通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。
- ③ 送信と受信を交互に繰り返して通話をつづけます。

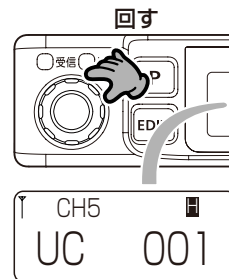
◆ 通話チャンネルに設定できる便利な機能

- ◎ 通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)には、ユーザーコード★、および秘話キー★を設定できます。
★同じ設定の相手とだけ通話できます。
- ◎ プライベートチャンネル機能(☞P27)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の切り替えに便利です。
- ◎ プライベートチャンネルスキャン機能(☞P28)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

◆ ユーザーコード(UC)について(☞P8)

同じユーザーコードを設定する相手とだけ通話できます。

- ① 相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。
- ② [FUNC/☞]キーを繰り返し短く押して、「UC OFF」表示を選択します。
- ③ ツマミを回して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。
※ [EDIT]キーを短く繰り返し押しすると、編集できる桁が点滅します。
[FUNC/☞]キーを押すと、点灯が変わり、設定が確定します。



◆ 秘話機能について(☞P12)

同じ秘話キーを設定する相手とだけ通話できます。

- ① 相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。
- ② [FUNC/☞]キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」表示を選択します。
- ③ ツマミを回して、「秘話 ON」表示に切り替えます。
- ④ [EDIT]キーを短く1回押します。
※ 短く2回押したときは、編集できる桁が点滅します。
- ⑤ ツマミを回して、通話する相手と同じ秘話キー(例:00001)を設定します。
- ⑥ [FUNC/☞]キーを押すと、「秘話 ON」表示に変わり、設定が確定します。



高品質がテーマです。

A-7133D-1J-③

Printed in Japan

© 2014–2015 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32